

書籍名	近代美学入門	著者名	井奥 陽子
出版社名	ちくま新書	発行年月	2023年10月

大阪から高速バスで2時間半、大塚国際美術館を訪問しました。そこで一生分の絵画を堪能、それ以来いままでさほど関心がなかった芸術・美術分野に興味を覚えるようになりました。本書との出会いにより自分の偏った価値観がほんの少しだけバランスを回復したように感じています。

まず「芸術」や「美」について語られる事柄の多くは、ヨーロッパという一地域で、たかだか200～300年前に生まれたということ、「ものを見て美しいと思う」のは、「そのものの中に美が存在するのではなく、それを感じるができる人のなかにある」という、現代では当たり前の方の考え方が優勢になったのも、同じような歴史を持っているという事実に驚かされました。

中世以前、アートは技術を意味しており、芸術という概念がなかったのです。近代になって確立された芸術の主要ジャンルは、詩、音楽、絵画、彫刻、建築でした。初期近代まで、詩人、音楽家、画家、彫刻家などは、いまでいうフリーランスのような自立した職業ではなく、パトロン(王侯貴族、トップの聖職者)の庇護のもとにありました。作者という概念もなく、作り手は主役ではありません。その作り手が自分の作品に対して権利が認められ著作権が制定されるのは、18～19世紀になってからのことです。

時代背景の変化が社会的変化を誘発します。17世紀の科学技術の発展(ガリレオ、ニュートン)市民階級の台頭により特権階級でなくても芸術に触れることができるようになりました。17世紀には公開の演奏会、展覧会が登場します。印刷産業の発展により識字率が向上したことにより、18世紀には小説が誕生します。小説家、美術商という職業も確立しました。もちろんフリーランスの芸術家も出現します。その背景に市民が豊かになった事実があります。

素朴な疑問として、「美」は何の役に立つのでしょうか？
井奥は、「美は私にとって心の薬です。美を感じてこそ、楽しいことばかりでない日々も生きやすくなると感じます」確かに美を感じる能力が高まれば、人生の幸せは増えるように思います。「自分を絶対的な物差しにしないこと。自分と異なるバックグラウンドを持った他者がいる」そう考えることが生きるうえでの基本的態度だと、井奥は本書で語っています。

岩城



編集後記



高齢者向け住まい・施設の件数(※地域包括ケアシステムにおける高齢者向け住まいについて(R7.3.17)より)、全国で有料老人ホームは15,928ホーム、サービス付き高齢者向け住宅は8,130住宅、合計24,058カ所。特に①大阪府は全国一多くて2,294カ所②北海道が1,685カ所③東京都1,561カ所④愛知県1,517カ所⑤神奈川県1,491カ所①～⑤の合計 = 8,548カ所(全体の約42.8%)。その中で、家族にも(入居者募集)、スタッフにも(職員募集)要は、選んでもらわないと事業が成り立たないのがこの事業の難しい所。

ここが運営者の腕のみせ所?2019年(株)ベネッセスタイルケアは独自の社内資格を設け、年1回の更新試験というものと、認定1つにつき月1万5千円の手当というアメを用いて、若者言葉からヒントを得た「マジ神」(高いスキルを持つ「介護の匠」のことを指す)という人材育成制度により、介護職の専門性を高め、魅力的な職業とすることを目指す。独特の名称由来は、ある施設で、認知症の影響で怒りやすく、職員が対応に苦慮する入居者様が、ある職員が対応すると、入居者様は笑みすら見せる。それを見た新卒社員が「マジ、神っすね」と言ったことから生まれた。こうしたスキルは、属人的で、真似しにくいと思われがち。でも職員の思考プロセスや着目点などを1つひとつ言語化。人材育成プログラムに落とし込み、現在は、「認知症ケア」「安全管理と再発防止」「介護技術」「医療連携&ACP」の研修プログラムがあり、試験に受かると「マジ神」として認定される。2022年には「マジ神AI」を開発。利用者に対する適切なケアのヒントをAIが教えてくれる仕組み。

小林仁社長はこの制度のいい点は、「プライドを持ってケアをしている」という職員の情熱が感じられ、その上、自分がいることでいいサービスができることを実感、これが最大のやりがいに通じるなら、もっと社会で介護職の専門性は認められるはずだと。日々、アップデートをしてい

発行所:ライフデザイン研究所 編集人 伊藤 くとこで、人材育成は強化され、終わりなき闘いが延々と続くがその先には「神」が
所在地:〒541-0048 大阪市中央区瓦町3-4-87サピビル2F Tel 06-4708-6844 Fax 06-4708-7067 マジ、神っすね!